デイリー・マーケット・レポート

東京市場デイリー・レビュー／2026 年 10 月 28 日(水)　発行：ていネコの投資ノート

【速報版】本レポートは 2026 年 10 月 28 日(水)の大引け後、日本時間 17 時台に作成した。東証プライムの売買代金・売買高は概算値であり確報で変動する可能性がある。米国市場・商品の数値は 10 月 27 日(火)の終値・清算値である。

1．本日のサマリー

■ 日経平均株価は前日比 685.82 円(1.08%)高の 6 万 3954.19 円と 2 日続伸。前日の米半導体株高と SK ハイニックスの好決算を受け、後場寄り直後の 12 時 34 分に 6 万 4308.71 円まで上昇したが、引けにかけて上げ幅を 3 分の 2 に縮めた。

■ 一方で TOPIX は 5.66 ポイント(0.14%)安の 3991.71 と 3 営業日ぶりに反落。東証プライムの値下がり銘柄数は 1092 で値上がりの 431 を大きく上回り、全体の約 7 割が下落した。二つの指数が逆方向に動いた一日である。

■ 日経平均の上昇はアドバンテスト、東京エレクトロン、ソフトバンクグループ、キオクシア HD の 4 銘柄でおよそ 731 円分。この 4 銘柄を除けば日経平均は下落しており、相場の広がりを著しく欠いた上昇だった。

■ 債券は株高で売られ、新発 10 年債利回りは 2.818%へ 3.6bp 上昇。超長期ほど上げ幅が大きく 20 年債は 5.9bp 上昇した。FOMC 結果と日銀会合を控え、ドル円は 157 円台後半で小動きだった。

2．主要指標

指　標	水　準	前日比	備　考
日経平均株価	63,954.19 円	+685.82(+1.08%)	2 日続伸。高値 64,308.71
TOPIX	3,991.71	-5.66(-0.14%)	3 日ぶり反落。33 業種中 23 業種が下落
東証プライム売買代金	8 兆 742 億円	—	概算。前日比 1 兆 1,382 億円増
長期国債先物 12 月限	126 円 29 銭	-32 銭	寄付 126 円 36 銭／安値 126 円 20 銭
新発 10 年債利回り	2.818 %	+0.036	20 年債 3.640%、2 年債 1.883%
ドル／円	157.82 円	-0.13	東京時間 15 時 39 分時点
ユーロ／円	175.47 円	-0.25	同時点。ユーロドル 1.1118 ドル
NY ダウ	52,377.57 ドル	+15.99(+0.03%)	10 月 27 日終値。ボーイング急落が重荷
S&P500	7,722.60	+45.83(+0.60%)	10 月 27 日終値。続伸
ナスダック総合	26,477.81	+308.43(+1.18%)	10 月 27 日終値。AI 関連がけん引
SOX 指数	11,482.50	+399.03(+3.60%)	10 月 27 日終値。3 日続伸
米 10 年債利回り	4.999 %	+0.013	10 月 27 日 NY16 時 34 分時点
WTI 原油 12 月限	99.90 ドル	-1.86(-1.83%)	10 月 27 日清算値。100 ドル割れ
NY 金 12 月限	4,074.60 ドル	+36.20(+0.90%)	10 月 27 日清算値。続伸
韓国 KOSPI	6,012.44	+374.10(+6.63%)	10 月 28 日終値。6,000 台に乗せて引け

3．株式市場

米半導体株高と SK ハイニックス決算が寄り付きを押し上げた

前日の米国市場でフィラデルフィア半導体株指数(SOX)が 3.60%高と 3 日続伸したことが東京市場の出発点となった。日経平均は 470 円高の 6 万 3738.98 円で始まり、寄り付き直後の 9 時 02 分に付けた 6 万 3660.30 円がこの日の安値となった。さらに取引時間中、韓国の SK ハイニックスが 7－9 月期の営業利益を前年同期比 7 倍超と発表し、60 兆ウォンの追加株主還元(年内合計約 100 兆ウォン)も示したことで、メモリー関連の評価が一段切り上がった。韓国市場では KOSPI が 6.63%高と急騰し、SK ハイニックスは 10.89%高、サムスン電子は 9.01%高で引けている。東京市場でもこの流れがキオクシア HD に直接波及し、同社株は 13.8%高の 1 万 4340 円まで買われた。メモリー価格の上昇局面が少なくとも数年続くとの見方が広がり、装置・材料の各社にも買いが及んだ。

後場寄り後に高値を付け、そこから上げ幅を 3 分の 2 に縮めた

日経平均は後場寄り直後の 12 時 34 分に 6 万 4308.71 円まで上値を伸ばし 6 万 4000 円台を回復したが、そこが天井となり大引けまでに 354 円を吐き出した。29 日未明の FOMC 結果公表、29－30 日の日銀金融政策決定会合、同日引け後のアドバンテストを含む国内主要企業の決算発表が控えており、上値を追う材料としては不十分と判断された面が大きい。売買代金は 8 兆 742 億円(概算)と前日の 6 兆 9360 億円から 1 兆円以上増え、売り手と買い手の双方が動いた一日だったことを示している。前日 27 日も Anthropic の IPO 申請を手掛かりに 1078 円高と 4 日ぶりに急反発しており、二日続けて海外の AI 関連ニュースが相場の起点になった。逆に言えば、国内発の買い材料は本日も乏しく、相場の方向は海外の材料と決算の内容に委ねられている状態が続いている。

物色は半導体に集中し、内需・ディフェンシブは広く売られた

業種別では 33 業種のうち上昇は 10 業種にとどまった。上位はガラス・土石、非鉄金属、電気機器、機械で、いずれも半導体製造装置・材料を含む。下落側は保険業、食料品、石油・石炭、水産・農林の順で、金利上昇の恩恵を受けやすい保険業が下落率トップという点は単純な金利連動では説明がつかない。個別ではカプコンが通期見通し据え置きへの失望から 12.4%安の 3835 円、ニデックは有価証券報告書の適正意見を月内に得られない見通しと報じられ一時 7.7%安の 1607 円まで売られて年初来安値を更新した。信越化学工業は中間決算の純利益が市場予想を上回り 2.6%高の 6004 円。東証グロース 250 指数は約 797 ポイントと 4 日続伸しており、半導体以外の資金が小型株へ向かっている可能性もうかがえる。ヒューリックは今期純利益が過去最高となる見込みを示しながら、負債の増加を懸念されて 1.6%安の 1741 円で引けた。好決算でも売られる銘柄が目立ったことは、決算シーズン半ばの相場としては慎重な地合いを示している。保険業の下落は、金利上昇が運用環境の改善として素直に評価される局面ではなくなってきたことの表れとも読める。

4．本日の主題：日経平均を 731 円押し上げた 4 銘柄と、7 割が下げた市場

本日の日経平均への寄与度上位はアドバンテストが 230.85 円、東京エレクトロンが 209.85 円、ソフトバンクグループが 168.28 円、キオクシア HD が 122.82 円で、この 4 銘柄だけで約 731 円と上昇幅 685.82 円を上回る（筆者算出）。下位はコナミ G が 52.59 円、日東電工が 35.73 円、バンダイナムコ HD が 31.05 円の押し下げだった。上位数銘柄の上昇が、広く薄く分布した下落を数字の上で覆い隠した一日である。

この構造は指数の設計差に由来する。日経平均は株価の絶対水準が高い銘柄の寄与度が大きくなる株価平均型で、値がさの半導体関連 1 銘柄が指数全体を数百円動かす。対して TOPIX は時価総額加重で金融・内需・資源を含む広い構成を持つ。半導体というひとつのテーマだけが買われ他が売られる日には、両指数は必然的に逆へ動く。値上がり 431 対値下がり 1092 という内訳は、市場の実態が下落だったことを示している。

含意は二つある。第一に、日経平均の水準だけを見ていると保有銘柄の値動きとの乖離が大きくなる。第二に、この上昇は海外発の材料に依存しており、材料が逆回転すれば下げも同じ 4 銘柄に集中する。10 月 22 日に 1713 円安と急落した日も主因は半導体関連だった。

5．債券・金利

長期国債先物 12 月限は 126 円 36 銭で寄り付き、高値 126 円 51 銭・安値 126 円 20 銭をつけたのち 126 円 29 銭で引けた。前日比 32 銭安で、株高によるリスク回避姿勢の後退が売りにつながった。現物債は新発 10 年債が 2.818％（前日比 +0.036）、2 年債 1.883％（+0.017）、5 年債 2.257％（+0.040）、20 年債 3.640％（+0.059）。年限が長いほど上げ幅が大きいスティープ化で、29 日の 2 年利付国債入札と日銀会合を前にした持ち高調整が超長期に出たとみられる。米国債（27 日 NY）は 2 年 4.737%、10 年 4.999%、30 年 5.310%と小幅上昇した。

6．為替・商品

ドル円は東京時間の朝方に 158.04 円の高値をつけたあと 157.75 円まで下げ、15 時 39 分時点で 157.82 円（前営業日の NY 終値比 0.13 円のドル安）。FOMC 結果公表と日銀会合という二つのイベントを前に、積極的な取引は見送られた。ユーロ円は 175.47 円、ユーロドルは 1.1118 ドル。商品は 27 日の NY 市場で WTI 原油 12 月限が 99.90 ドル（1.83%安）と続落し 100 ドルの大台を割った。イラン情勢をめぐる外交的解決への期待から供給ひっ迫懸念が後退したためである。原油安でインフレ懸念が和らぎ NY 金 12 月限は 4074.60 ドル（36.20 ドル高）と続伸した。

7．海外市場の動向

27 日の米国市場は 3 指数がそろって続伸した。ナスダック総合 1.18%高、S&P500 が 0.60%高に対しダウ工業株 30 種平均は 0.03%高にとどまり、上昇の偏りが際立った。ダウはボーイングが民間航空機部門の損失拡大と納入目標引き下げを発表して 1 割超下落し、指数の足を引っ張った。牽引役は AI・半導体で SOX 指数は 3.60%高。Anthropic 向けの大型コンピュート調達の資金枠組みと同社の IPO 申請が材料とされた。当日のアジアでは韓国 KOSPI が 6.63%高と急騰して 6000 台に乗せ、外国人と機関がそれぞれ 1 兆ウォン超を買い越した。上海総合は 0.91%高の 3681.47、香港ハンセンは 0.23%高の 23094.83 と、半導体比重の低い市場の上昇は限定的だった。

8．直近の推移

日 付	日経平均	前日比	TOPIX	10 年債	売買代金
10 月 22 日(木)	62,907.84	-1,713.40	3,997.50	2.870%	7 兆 569 億円
10 月 23 日(金)	62,693.16	-214.68	3,965.81	2.789%	8 兆 9,383 億円
10 月 26 日(月)	62,189.65	-503.51	3,972.98	2.770%	6 兆 6,438 億円
10 月 27 日(火)	63,268.37	+1,078.72	3,997.37	2.782%	6 兆 9,360 億円
10 月 28 日(水)	63,954.19	+685.82	3,991.71	2.818%	8 兆 742 億円

9．総括と注目点

本日の東京市場は、指数の数字と市場の実感が最も乖離しやすい形の一日だった。日経平均は 685 円高で 2 日続伸したが、上昇は値がさの半導体関連 4 銘柄に集約され、約 7 割の銘柄は下落して TOPIX は反落した。債券は株高で売られ超長期中心に金利が上昇したが、原油安・金高というインフレ期待の緩和とは整合せず、むしろ需給要因の色が濃い。

- FOMC の結果公表（日本時間 29 日未明）とウォーシュ FRB 議長の記者会見。政策金利は据え置き観測が優勢で、会見での景気・インフレ評価が焦点となる。
- 日銀金融政策決定会合（29－30 日）と結果公表後の総裁記者会見。本日の超長期債の金利上昇が会合を織り込んだ動きだったのかが検証される。
- 29 日の 2 年利付国債入札。2 年債利回りが 1.883%へ上昇して臨む入札であり、応札倍率とテールの出方が短中期ゾーンの需給を示す。
- 本日引け後のアドバンテストほか国内主要企業と、米マイクロソフト・アルファベットの決算。29 日の米 7－9 月期 GDP 速報値と 9 月の個人所得・消費支出（PCE）。

脚注：前日比と騰落率、各年限の国債利回りの前日比は、当日終値と前営業日終値の差として筆者が算出し検算した。寄与度の合計（上位 4 銘柄で約 731 円）、韓国 KOSPI の前日比+374.10 ポイント、上海総合指数の前日比+33.17 ポイントは筆者算出。

国債利回りは日次配信の「日本国債市場」記事の系列で全日をそろえた。日本相互証券の公表値は 10 月 23 日 2.800%、26 日 2.780%、27 日 2.795%で同系列とは 1bp 前後の差がある（28 日分は執筆時点で未掲載）。30 年債利回りは 28 日分が取得できず記載していない。売買代金 8 兆 742 億円は概算値で全文確認できた出典が 1 件、安値 63,660.30 円も出典 1 件の暫定値である。

WTI 原油 12 月限は 99.90 ドル（-1.86 ドル）、NY 金 12 月限は 4,074.60 ドル（+36.20 ドル）を採用した。それぞれ 99.98 ドル・-1.78 ドル、4,074.50 ドル・+36.10 ドルとする配信記事もあり、前営業日清算値（101.76 ドル、4,038.40 ドル）との検算はいずれも成立するが、採用した値はともに 2 系統以上の出典で一致したためこちらを採った。SOX 指数の 27 日終値は 11,482.50 と 11,482.51 の二表記があり、前日終値 11,083.47 との検算が合う前者を採った。

本資料は生成 AI を用いて公開情報を整理・執筆したものである。出典：株探、日本経済新聞、財経新聞、マネクリ、共同通信、OANDA 証券、みんかぶ、ザイ FX!、THE GOLD ONLINE、日本相互証券、財務省、AP 通信、The Asia Business Daily、Rigzone、Conference Board。

本資料は公開情報に基づく市況の整理であり、特定の銘柄の売買を推奨するものではありません。投資判断はご自身の責任でお願いいたします。